

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570201196
法人名	医療法人 与州会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地	〒885-0052 宮崎県都城市東町10街区18号 (電 話) 0986-46-3730
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(20 年 7 月 6 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000	円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有(150, 000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(7月 15 日現在)

利用者人数		15 名	男性	4 名	11 名
要介護1		4	名	要介護2	1 名
要介護3		2	名	要介護4	7 名
要介護5		1	名	要支援2	名
年齢	平均	85 歳	最低	75 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	柳田クリニック・病院 安富歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者それぞれの人生を尊重し、利用者がホームを自分の家として過ごされることを理念に掲げ、職員は日々理念の実現に努めている。それぞれの居室は広く明るく造られており、使い慣れたなじみの物に囲まれ利用者それぞれの個性ある雰囲気である。母体法人の医療や関連施設が隣接し連携している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	地域との関わりにおいては、ボランティアの受け入れを通しての交流や、運営推進会議での区長との連携、ホーム便りを発行するなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	利用者本位のケアや対応が出来ているか確認したり、新たな課題の発見の機会としている。
重点項目④	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者代表、家族、地区公民館長又は代表、行政担当者、社会福祉協議会等のメンバーで隔月毎に開催しており、地区代表と災害対応を協議したり、地域の行事への参加を模索している。
重点項目⑤	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の相談・苦情等を受けとめ改善に努めている。
重点項目⑥	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺は医療関連施設が多く、地域民家等との連携がとりにくい環境であるが、ボランティアの受け入れや運営推進会議等で地域連携に努めているので、今後さらに期待される。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームより遠隔の地で生活してきた利用者も、ホーム所在地の地域性に馴染み溶け込めるよう、利用者それぞれの人生を尊重した理念である。昨年度見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者がホームを自分の家として過ごすことが出来るよう、職員は毎月のミーティングで日々のケアを共有し実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人として自治会に加入しており、ホーム単独では加入していないが、運営推進会議や公民館長を介して、ホームの行事案内や招待などで地域との関わりづくりに努めている。		ホーム単独での自治会参加や、理髪ボランティアが子どもさん同伴の来訪希望もあるので、今後さらに地域からホームへ訪ねてもらえるような取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者本位のケアや対応ができているかを、外部評価で確認したり、又新たな課題発見の機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者本人や家族、公民館長や行政担当者、社会福祉協議会等のメンバーで隔月に開催している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営やサービス実施に当たってわからないことが生じた時、ホームから市町村へ直接出向いて相談したりして、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時や毎月のホーム便りで、利用者の状況、金銭管理の報告がなされており、遠方の家族等にも細やかな配慮がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの相談・苦情等を受けとめ職員間で検討し、改善に努めている。例えば献立や食材購入・調理等について協議し、改善合理化に繋がっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の担当職員が交代する時は、利用者の不安感を減らすように配慮している。職員交代は家族来訪時やホーム便りで伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加し、受講後は復命で共有している。		受講後の復命は行われているが、事業所としての記録が保管されていないので、整備が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、県南グループ勉強会にも参加し交流や研鑽に努めている。年に最低3回の勉強会に参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の事情で家族のみがホームを見学後に、ホーム利用開始となることもある。	○	ホームの見学やお試しの機会を作ったり、緊急的な入居の場合は家族の面会の機会を多くするなど早く馴染めるような工夫をしてほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族のように利用者と接しており、料理の味付けをしてもらったり、洗濯物を干したり、取りこんだり、たたみ方などしてもらっている。また掃除の仕方や冠婚葬祭など学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や動作から、また面会時に家族等から情報を得て利用者の意向や希望を汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞いて、介護計画を作成している。日々の経過記録用紙は計画の内容が把握できるよう工夫され、全職員が計画に基づいたケアや観察記録になるように取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3か月、6か月、また必要時随時に行われている。介護記録により状態はよく把握されている。		さらに日々の記録を活かして、状態の変化の無い場合にも月に1回の見直しの取り組みを進めてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望等に柔軟に対応支援している。家族の宿泊や家族も一緒に利用者の居室で語り合いながら食事をしたり、またリフト車を利用しての外出の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が遠方の場合には職員が同伴し受診できるよう必要な支援をしている。歯科医師や同法人の医師の往診の体制もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	隣接の母体法人の病院と看取りの連携をしている。家族等に早期にホームの対応についての説明を行い、職員間で共有し、家族の意向を確認し希望に添うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重した支援を職員間で確認し合っている。家族の了解を得て利用者の写真や名前をホーム内に表示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその日をどのように過ごしたいかを把握し、職員間で共有し希望に添うよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前や、外食も取り入れ食事が楽しめるように工夫している。ミキサー食にする場合も利用者の意向をその都度聞いて対応している。職員は利用者と同じ卓で同じものを食べ一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	楽しんで入浴出来るように、利用者の状態に応じて工夫や配慮がなされている。	○	介護度が重度化しており、安全・安楽な入浴の支援のために工夫を検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの力が出せるようテーブル拭き、袋たたみ、ゴッタン奏、買い物など役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者それぞれの状態に応じて散歩や近所への買い物、玄関のプランターの水やりなどされている。		ホーム居室が2階・3階の環境の中での支援に努力されているが、外出の機会がさらに増えるよう工夫してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を理解しながら、階下への移動エレベーターに安全のため施錠している。	○	利用者がエレベーターを安全に使用できる工夫をしたり、地域の中のホームとして、地域からの来訪者が訪ねやすい雰囲気づくりからもエレベーターに鍵をかけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署と連携して、年2回総合防災訓練をしている。隣接病院との連絡橋が今年1月に完成し、病院からの協力が得やすくなった。	○	一人勤務となる夜勤時の実地訓練や、ホーム周辺地域の協力が得られるような関わりづくりもすすめてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分摂取量等それぞれに応じて配慮されている。また合わせて排泄についてもチェックできるように工夫している。		食材のバランスにも配慮された献立であるが、栄養面から栄養士によるアドバイスを得る機会があればさらに良いのではないだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間もさりげなく季節感があり、居心地のよい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく広く、使い慣れた馴染みのものがあり、利用者それぞれの個性を出している。		